

潰瘍性大腸炎患者さん用

ジセレカ®錠を服用される方とそのご家族へ

# ジセレカ®錠 服用ガイドブック



ジセレカ®錠  
filgotinib

# はじめに

## ジセレカ®錠を適切に服用していただくために

ジセレカ®錠は、中等症から重症の潰瘍性大腸炎に対して1日1回1錠を服用するお薬です。これまでの治療で十分な効果が得られなかった方に対して使用されます。

この冊子は、これからジセレカ®錠の服用を始める潰瘍性大腸炎の方に、お薬のはたらきや服用方法、気をつけたいこと、副作用が起こった場合どうすればよいかなど、ジセレカ®錠による治療を続けていくうえで重要なポイントについて解説しています。

服用中に、疑問に思う点や、不安に思う点などがありましたら、この冊子を確認したり、主治医や薬剤師に相談してください。



# 目次

潰瘍性大腸炎の発症のしくみと症状 ..... 4

潰瘍性大腸炎の日常生活への影響 ..... 5

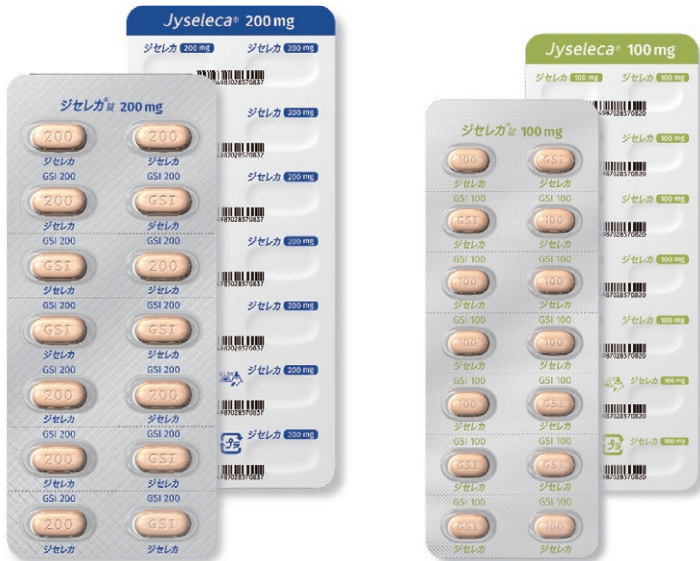
ジセレカ®錠のはたらき ..... 6

ジセレカ®錠の服用方法 ..... 8

ジセレカ®錠服用にあたって医師が確認すること ..... 10

ジセレカ®錠服用中に注意すべき症状 ..... 12

Q&A ..... 16



# 潰瘍性大腸炎の発症のしくみと症状

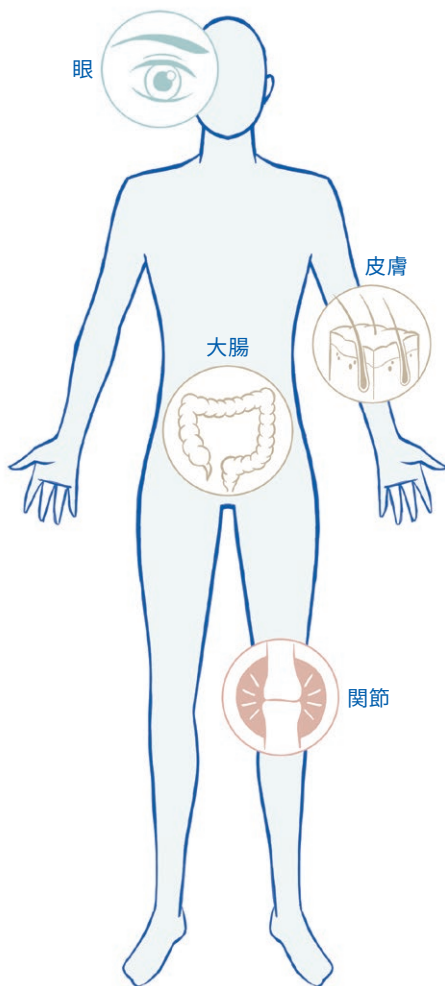
## 腸内細菌に対する免疫系の異常反応が原因

潰瘍性大腸炎は、遺伝的素因と食生活やストレスなどの環境因子が引き金となり、腸内細菌に対し免疫系が異常反応を起こすことによって大腸の粘膜に炎症が生じ、潰瘍を起こす疾患です。症状が落ち着く<sup>かんかい</sup>寛解と呼ばれる状態と、症状がぶりかえす再燃を繰り返すのが特徴です。

## 症状は腸管だけでなく全身に及ぶ

主な症状は大腸粘膜の潰瘍やただれによる腹痛や下痢、血便、発熱、体重減少などです。

それ以外に、皮膚病変、<sup>こうさいえん</sup>虹彩炎や結膜炎などの眼病変、関節炎など腸管以外にもさまざまな合併症(腸管外合併症)が起こることがあります。

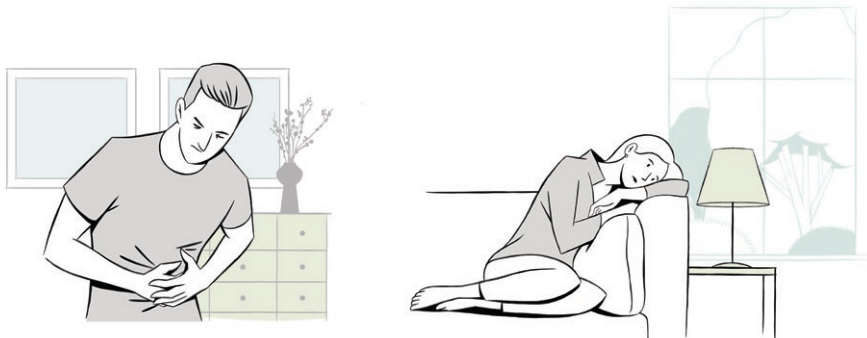


# 潰瘍性大腸炎の日常生活への影響

## からだ以外に日常生活にも影響

特定の食べ物によって症状が悪化したり、病気が急に悪化して、睡眠不足や疲労感、貧血などを招くことがあります。

日常生活に自信が持てず、仕事や通学、人間関係や社会生活を楽しむことができなくなることもあります。また、ストレスを感じる、悩みがちになる、うつ状態、不安、社会的孤立など、精神面に問題が起こることもあります。



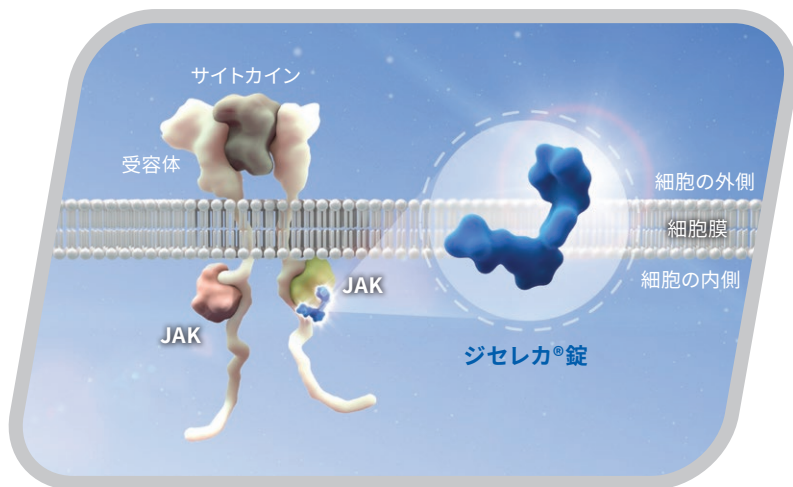
## さまざまな影響はあるが、適切な治療により長期に健康な状態を維持することが期待できる

潰瘍性大腸炎は、寛解と再燃を繰り返し、完治することは難しい慢性疾患ですが、最近の治療の進歩により、適切な治療を継続することで、長期に健康な状態を維持することが期待できます。

# ジセレカ®錠のはたらき

ジセレカ®錠は、潰瘍性大腸炎の炎症に関わる JAK<sup>ジャック</sup>\* と呼ばれるタンパク質にはたらき、炎症を抑える役割を果たすと考えられているお薬です。

\*ヤヌスキナーゼ (Janus kinase)



(イメージ図)



潰瘍性大腸炎では、大腸のウイルス感染や細菌感染等に対して免疫系が過剰に反応し、サイトカインのはらたきにより炎症が生じます。感染が収まってからも、炎症状態が続き、潰瘍が形成されます。



JAK は、サイトカインが出す炎症を誘発する信号を細胞内に伝え、炎症を引き起こします。



ジセレカ®錠はこの JAK に結合することで、細胞内への信号の伝達をブロックし、炎症を抑えます。その結果、潰瘍性大腸炎の症状を軽減することが期待されます。

## 治療を続けていくと、次のような作用が期待できます



炎症や症状が抑えられ日常生活に支障がない寛解状態を維持することが期待できます。



ステロイドを併用している場合、ステロイドの使用を減らすことが期待できます。



寛解状態を維持することで、日常生活に自信を持ち、仕事や通学、人間関係や社会生活における制限を減らすことが期待できます。

# ジセレカ®錠の服用方法<sup>1)</sup>

**成人の場合、通常、200mg 錠 1 錠を 1 日 1 回服用します**

\*100mg 錠を 1 日 1 回服用の場合もあります。医師の指示通りに服用してください。

食事のタイミングに関係なく服用できますが、毎日同じ時間に服用するようにしましょう。



## 保管上の注意



お子さんの手の届かないところに保管してください。



室温で保管してください  
(冷蔵・冷凍しないでください)。

1) ジセレカ®錠 200mg / ジセレカ®錠 100mg 添付文書



## ジセレカ®錠の服用を毎日の生活に組み込みましょう

治療の効果を十分に得るためには、お薬は医師の指示通り毎日服用することが大切です。

お薬の飲み忘れを防ぐために、ご自分の生活スタイルに合わせて服用する時間を決め、毎日の生活に組み込んでみてはいかがでしょうか。



## 飲み忘れを防ぐためのヒント



ジセレカ®錠の服用時間を、歯磨き、朝食、毎日の散歩などの毎日の生活習慣の前後に組み合わせてはいかがでしょうか。



スマートフォンや目覚まし時計のタイマーをセットして、服薬時間にアラームが鳴るようにしてはいかがでしょうか。



「ジセレカ®錠ダイアリー」を活用し、服用日時を記録しましょう。 ※ジセレカ®錠ダイアリーの入手に関しては主治医にご相談ください。

# ジセレカ®錠服用にあたって 医師が確認すること

主治医はジセレカ®錠の服用を開始するにあたって、以下の点を確認します。

## 服用前の診察・検査

問診や血液検査で、ジセレカ®錠服用が可能かどうかチェックします。

### ジセレカ®錠が服用できるかどうかをチェックするための主な検査項目

項目	診察・検査方法
・この薬の成分に対する過敏症にかかったことがあるかどうか	問診
・妊娠しているかどうか（女性）	問診
・子どもの受胎を希望するかどうか（男性・女性）	問診
・授乳しているかどうか（女性）	問診
・年齢	問診
・重篤な感染症の既往歴または危険因子があるかどうか	問診
・肝臓の機能	血液検査
・腎臓の機能	血液検査
・結核にかかっているか、または既往歴があるかどうか	血液検査、画像検査等
・B型肝炎、C型肝炎があるかどうか	血液検査
・リンパ球、好中球の状態	血液検査
・ヘモグロビン値	血液検査

## ワクチン接種について

ジセレカ®錠の服用前、または服用中には生ワクチンを接種できません。ワクチンを接種する場合は主治医に相談してください。

## 妊娠について

ジセレカ®錠服用中は、妊娠を避けるために適切な避妊を行ってください。  
ジセレカ®錠の服用終了後も、少なくとも1月経期間中は適切な避妊を行ってください。  
妊娠の可能性のある場合は主治医に相談してください。

## 男性の生殖能について

男性では、生殖機能が低下する可能性がありますので、主治医に相談してください。

## 授乳について

ジセレカ®錠服用中は、授乳は中止してください。



# ジセレカ®錠服用中に注意すべき 症状

ジセレカ®錠の服用中は継続的な体調のチェックが必要となります。副作用または体調の変化を感じた場合は、主治医に報告してください。

- ① じゅうとく 重篤な感染症、ひよりみ 日和見感染
- ② たいじょうほうしん 带状疱疹
- ③ じょうみやくけっせんそくせんしやう 静脈血栓塞栓症
- ④ しやうかかんせんこう 消化管穿孔
- ⑤ 間質性肺炎
- ⑥ 肝機能障害
- ⑦ 好中球数減少、リンパ球数減少、ヘモグロビン値減少
- ⑧ B型肝炎ウイルスの再活性化
- ⑨ おうちもんきんゆうかいしやう 横紋筋融解症、ミオパチー
- ⑩ 悪性腫瘍
- ⑪ しんけっかんけいじしやう 心血管系事象
- ⑫ 低リン血症

### ① じゅうどく重篤な感染症、ひよりみ日和見感染

**発熱、咳、痰、全身倦怠感など、風邪のような症状が続く**

免疫の働きが低下し、感染症にかかりやすくなったり、体内に潜んでいた感染症が悪化する可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

### ② たいじょうほうしん带状疱疹

**皮疹、痛み、しびれ、かゆみ**

免疫の働きが低下し、带状疱疹になりやすくなる可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

### ③ じょうみゃくけっせんそくせんしやう静脈血栓塞栓症

**突然の呼吸困難、胸の痛み／下肢のはれ、痛み、皮膚の色調の変化**

静脈に血栓ができて、静脈が詰まったり血液が流れにくくなる静脈血栓塞栓症が起こる可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

### ④ しょうかかんせんこう消化管穿孔

**急な持続する腹痛、激しい腹痛、下血など**

胃や腸に穴があく消化管穿孔が起こる可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

### ⑤ 間質性肺炎

**痰の出ない咳、息切れ**

肺の末端にある肺胞の壁（間質）に炎症が起きる間質性肺炎が起こる可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

## ジセレカ®錠服用中に注意すべき症状

### ⑥肝機能障害

#### 黄疸、食欲不振、発疹など

肝臓の機能が低下する可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

### ⑦好中球数減少、リンパ球数減少

#### 発熱、寒気、のどの痛みなど感染を疑う症状

血液中の白血球の一種である好中球やリンパ球が減少する可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

#### ヘモグロビン値減少

#### 顔色が悪い、疲れやすい、だるい、頭が重い、易疲労感、倦怠感、頭重感、動悸、息切れなど貧血を疑う症状

血液中の赤血球に含まれるヘモグロビン値が減少する可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

### ⑧ B 型肝炎ウイルスの再活性化

#### 倦怠感、発熱、食欲不振、悪心・嘔吐、発疹、黄疸等の症状が急にあらわれたり、続いたりする

免疫の働きが低下するため、体内に潜んでいた B 型肝炎ウイルスが再活性化する可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

### ⑨ おうもんきんゆうかいしょう横紋筋融解症、ミオパチー

#### 手足や全身の筋肉痛、しびれ、尿の色が赤褐色になる

筋肉の構成要素の一種であるクレアチンホスホキナーゼ（CPK）が筋肉から血液に流れ込む可能性があるため、横紋筋融解症やミオパチーになりやすくなる可能性があります。

上のような症状がみられたら、すみやかに主治医に報告してください。

## ⑩悪性腫瘍

本剤との関連性は明らかではありませんが、悪性腫瘍の発現が報告されています。

## ⑪心血管系事象

血液検査で、総コレステロール上昇、LDL コレステロール上昇、HDL コレステロール低下、トリグリセリド上昇などの脂質検査値異常がわかる可能性があります。脂質検査値異常は、虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症）を引き起こす原因のひとつとなります。

## ⑫低リン血症

血液検査で、血液中のリン濃度が低値になる低リン血症がわかる可能性があります。

ここに記載した以外の症状でも、体調の変化を感じた際には主治医に報告してください。



## Q&A

### Q ジセレカ®錠をのみ忘れたらどうすればよいでしょうか？

A 服用を忘れたときは、気づいたらすぐに服用してください。1日服用を忘れた場合は、服用しなかった分を飛ばして、次の日に1回分だけ服用します。のみ忘れても2回分を1度にまとめて服用しないでください。

### Q 間違った量を服用してしまったらどうすればよいでしょうか？

A 指示された量以上に服用した場合は、医師または薬剤師に報告してください。副作用があらわれる可能性があります。

### Q 副作用があらわれた場合はどうすればよいでしょうか？

A 12～15ページに、注意事項と副作用について解説しています。その項目をご参照のうえ、副作用ではないかと思われた場合、すみやかに主治医に報告してください。また、他の症状でも、体調の変化を感じたら、主治医に報告してください。

### Q ジセレカ®錠服用中には、どのような検査を受けますか？

A 定期的に、結核を含む感染症の有無、B型肝炎感染の有無、肝機能、腎機能、血液中のコレステロール、リンパ球、好中球の値などについて調べます。



**Q** 潰瘍性大腸炎以外で治療を受ける場合は  
どうすればよいのでしょうか？

**A** 必ず、医師または薬剤師にジセレカ®錠を服用していることを伝えてください。  
薬によっては、ジセレカ®錠の作用に影響を及ぼすものがあります。また、  
ジセレカ®錠が他の薬剤に影響を及ぼす場合があります。







## ジセレカ®錠服用患者さん向けサイトのご案内

ジセレカ®錠を適正にご使用いただくため  
ジセレカ®錠を服用される方とご家族が  
ジセレカ®錠の情報をご覧いただけるサイトです。

URL <https://jyseleca-pt.jp/uc/>

